

第17. その他(水産業関連取組事例)

(1) 真ツブ(エゾボラ)

日高の「隠れた特産品」の『日高の真つぶ』を日高ブランドに育てていこうと「日高産真ツブブランド化実行委員会」が主体となりPR普及に向けた取り組みを継続しています。

【平成23年度 取組み内容】

- ア 第5回 日高の真ツブフェスタを開催
- イ 日高昆布フォーラム(札幌)において「日高の真ツブ」をPR

●第5回 日高の真つぶフェスタを開催

地域ブランド化を推進していくため、地元の皆さんはもとより、日高管内を訪れる観光客の方々にも日高の真つぶを身近に感じてもらうと飲食店のご協力を得て、期間限定の「日高の真つぶ料理」提供による「第5回日高の真ツブフェスタ」が開催されました。

(料理写真一例)



●日高昆布フォーラムで『日高の真つぶ』をPR

ホテルポールスター札幌で開催された「日高昆布フォーラム」において、実行委員会としてPR試食販売ブースを出店。来場者の皆さんに『日高の真つぶ』の美味しさ、魅力をPRしました。



(2) 埋もれた食材

漁協女性部が主体となり、地場水産物の消費拡大と食育及び需要喚起を目指して取り組んでいる、「埋もれた食材」(低需要・低価格等のため廃棄されている魚介類)の普及に向けたPRの一貫として、日高地区漁協女性部連絡協議会が日高振興局で水産物の販売会を行いました。「やまのかみの昆布巻き」「毛つぶの甘露煮」など、あまりなじみのない食材を使った商品もありましたが、そのおいしさに加えて浜のかあさんの手作りという安心感もあり、売りきれの商品も出るなど好評でした。

(販売会)



また、大手バイヤーとの商談会に参加し、埋もれた食材のこだわりや魅力をアピールするとともに、いろいろなやりとりを通して改良点などアドバイスをもらっていました。今後も埋もれた食材を使ったいろいろな料理にチャレンジしていきます。

(商談会)



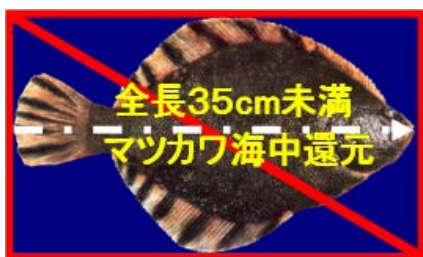
(3) 王鰈(マツカワ)

当管内では、平成5年から試験的に種苗放流が開始され、放流数の増加に伴って漁獲も右肩上がりとなっています。

平成18年には北海道栽培漁業拠点センター(伊達市、えりも町)の供用が開始され、えりも町から函館市南茅部までのえりも以西太平洋海域では100万尾の種苗放流を行い、150tの資源造成を図る計画となっており、うち当管内各地より44.9万尾(平成22年度実績・標識及びイベント含む)が放流されました。

《マツカワ資源管理》

マツカワの資源造成を図る上で、放流後のマツカワ稚魚を適切に保護・管理・育成するため、函館市からえりも以西の太平洋海域において、「全長35cm未満のマツカワの海中還元」を主な内容とした海区漁業調整委員会指示が発動され、漁業者はもとより遊漁者も対象とした資源造成に取り組んでいます。



〔 全長35cm未満のマツカワを採捕した時は、速やかに海中へ戻して下さい。 〕

